



# 太径鉄筋リバーコン D51 を用いた現場継手の強度試験

Experimental Studies on Joints of Large-Diameter  
Deformed Bar RIVER CON D51

佐 藤 琢 隆\*                      村 上 浩 一\* 佐 藤 琢 隆\*

Masakatsu Sato

Yukiharu Muraki

## Synopsis:

In jointing large diameter deformed bar at construction site, it is particularly important to judge the most appropriate method in accordance with the practical condition.

In order to satisfy this requirement, load-elongation curves and fatigue stress ranges at two million cycles have been measured not only on a conventional gas butt welded joint but also on such recently developed mechanical joints as Cold Chisel Tensile Shear Joint and Cold Weld Joint.

静的試験の結果にもとづく基準であるため動的荷重を受ける構造物に対しては不十分なものとなっている。

当社では、太径鉄筋リバーコン D51 の実用化にあたり、素材の研究<sup>2-4)</sup>と並行して重ね継手、ガス

い込ませることにより、くい込み肉とふしとのせん断力で応力を伝達する工法である。圧着する際の 1 回あたりの締付幅は、D51 用の場合グリップジョイントが約 45mm、TS 式スリーブジョイントが約 35mm 程度であり、両者とも油圧によって

ってきたが、いずれの継手についても静的試験のみで疲労に関する研究を行っていなかった。今回

形状が、グリップジョイントは円形<sup>2)</sup>、TS 式スリーブジョイントは六角形となっている (Fig. 2,





Table 4 Creep test results of Grip Joint

No.	Gauge length	Load	Time	$\delta_2$ (mm)	$\delta_1$ (mm)	$\delta = \delta_2 - \delta_1$ (mm)
-----	--------------	------	------	-----------------	-----------------	-------------------------------------



## 4.2 試験結果と考察

スリーブ中央部の疲労亀裂発生点は、溶融金属の

### 4.2.1 ガス圧接継手

ガス圧接継手の疲労試験の結果を **Table 6** に、  
両対数表示したものを **Fig. 7** に示す。ここで実  
線は、試験結果を最小 2 乗法を用いて直線回帰し

け込み部にあたりして一定でなく、試験結果に  
ばらつきが大きい。最小 2 乗法から求めた 200  
万回疲労強度振幅は  $12.2\text{kg/mm}^2$  と推定され、素  
材の 60% 強であった。



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



力  $20\text{kg}/\text{mm}^2$  ( $\sigma_r=18\text{kg}/\text{mm}^2$ ) に対する母材の  
抜け出しは若干生じるが、上限応力  $20\text{kg}/\text{mm}^2$   
程度までは母材の抜け出しを考慮する必要はない  
ものと思われる。ただし **Fig. 12** に示すように、  
上限応力が  $22\text{kg}/\text{mm}^2$  以上の場合では繰返し回

40

る。  
 (3) スリーブ長 300mm のカドウェルドスプラ

(6) スリーブからの母材の抜け出しは、上限応力を高くした場合繰返し回数とともに漸増す

と推定でき、素材の60%強である。  
 (4) スリーブ長 250mm、締付圧力  $750\text{kg/cm}^2$  のグリップジョイントの200万回疲労強度振

スリーブ継手などでは、破壊現象だけでなく繰返し応力によるスリーブからの母材の抜け出しなども検討する必要がある。特に繰返し回数が多く